

開設講座名	保育実践講座 I B	開設日	2021年8月24日（火）～26日（木）
担当者	曾田 裕司、安村 由希子 片桐 真弓、横山 博之 二子石 諒太、柿原 一貴	会場	尚絅大学 武蔵ヶ丘キャンパス (熊本県菊池郡菊陽町)
受講定員	40人	主な受講対象者	幼稚園教諭
受講料	18,000円	時間数	18時間
講習内容	本講習は、幼児教育に対する理解を深めるためのプログラムであり、次の6科目を開設する。 ①幼児が行う音楽表現の特質と意義 ②発達障害について ③子どもの発達と環境 ④子どもの造形表現について ⑤環境教育とは何か ⑥幼児期の身体運動の理解と実践		

午前	講習テーマ	幼児が行う音楽表現の特質と意義	曾田 裕司
	講習の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領および同解説に示されている領域「表現」の「内容」が意味するところを再考し、幼児の音楽表現をどのようなものとして見るべきなのかについて理解を深める。 ・音の環境と幼児の関わりについて考える。 	
	講習の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の音楽表現が持つ特質について、幼稚園教育要領および同解説に基づいて検討する。 ・実例をてがかりに、幼児の音楽表現が持つ創造的側面を分類した上、代表的なものを実践する。 ・幼児の音楽表現活動が持つ発達上の意義を考察する。 ・保育環境の中の音について検討し、手作り楽器を用いて音付物語を実演する。 	
	形態	講義と実技	
	テキスト	なし	
	事前準備	不要	
	評価	修了認定のための論述試験を講習時間内に実施する。	
	講習受講希望者への事前連絡		

午後	講習テーマ	発達障害について	安村 由希子
	講習の到達目標及びテーマ	発達障害について理解を深め、発達障害のある子への対応を考えられるようになる	
	講習の概要	①発達障害に関する基礎的な事項（定義、原因、特性など）について学ぶ ②発達障害のある子への対応について学ぶ	
	形態	講義・演習	
	テキスト	なし	
	事前準備	不要	
	評価	修了時に筆記試験を実施して評価判定する。	
	講習受講希望者への事前連絡	特になし。	

午前	講習テーマ	子どもの発達と環境	片桐 真弓
	講習の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をどのように捉え、理解していくまなざしが求められるかについて考察し、自らの子ども観や保育観を見直す。 幼稚園教育の基本である「環境を通して行う教育」について再検討を行う。 幼稚園教師の専門性とは何か、よりよい保育を実現するための手立てについて考察する。 	
	講習の概要	幼稚園教育要領の第1章総則の「第1節幼稚園教育の基本」を再確認することから始め、自らの子ども観・保育観を見つめ直し、子どもの発達を捉えるまなざしについて考察する。また、保育環境に焦点を当て、環境がもつ人間形成力について理解を深めることとし、さらには、幼稚園教師の専門性が問われるなか、よりよい保育を実現するための手立てについて、共に考えたい。	
	形態	講義（グループ討議や演習を含む）	
	テキスト	幼稚園教育要領解説（持ってない方はこちらで用意いたします）	
	事前準備	不要	
	評価	修了認定のための論述試験を講習時間内に実施する。	
	講習受講希望者への事前連絡	特になし。	

午後	講習テーマ	子どもの造形表現について	横山 博之
	講習の到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらいを踏まえて、幼児の造形的な表現活動について理解を深める。 造形活動の実践を通して、工夫しながら「もの」をつくりだす楽しさや喜びを味わう。 廃材を用いた制作を通して、材料（素材）・用具の価値の再発見をする。 	
	講習の概要	<ol style="list-style-type: none"> 講義「子どもにとって造形とは」 演習「廃材を用いた帽子づくり」 講義では子どもにとって「造形」とは、「表現すること」とはについて考える。演習では廃材を利用し、限られた用具を用いて、それぞれが設定したテーマにあわせた帽子づくりを行う。	
	形態	講義と演習	
	テキスト	なし	
	事前準備	不要	
	評価	実技試験（演習における制作過程も評価に含める。）	
	講習受講希望者への事前連絡	造形活動に適した服装で参加すること	

午前	講習テーマ	環境教育とは何か	二子石 諒太
	講習の到達目標及びテーマ	1. 幼児期における環境教育の目的と意義について基礎的な理解を有している。 2. 環境教育の視点から、自身の実践の意味を振り返り、保育のねらいを明確化することができるようになる	
	講習の概要	主に下記の2点について実践事例などを通して学んでいく。 1. 幼児・児童期における自然体験の喪失が指摘されて久しいが、なぜ自然体験が大切なのか、自然体験によってどのような効果があるのかについて学ぶ。 2. 保育現場で求められる環境教育とはどのようなものか、その目的と意義を学び、環境教育の視点から自身の実践を振り返り、今後の実践の方向性について探る。	
	形態	講義・演習	
	テキスト	講義内容をまとめたプリントを配布する。	
	事前準備	自身の勤務園での子どもの自然体験や自然に触れる活動にはどのようなものがあるのか、1年間を通して整理しておいてください。	
	評価	修了時に筆記試験を実施して評価判定する。	
	講習受講希望者への事前連絡	特になし。	

午後	講習テーマ	幼児期の身体運動の理解と実践	柿原 一貴
	講習の到達目標及びテーマ	・幼児期運動指針に示された内容を踏まえて、発達に応じた幼児の身体運動について理解を深める。 ・身体活動の実践を通して、指導内容に関する理解を深める。 ・環境に配慮した運動計画の理解を深める。	
	講習の概要	・幼児期運動指針について。 ・幼児期における身体活動の課題と運動の意義。 ・幼児期における運動の配慮事項と提案。	
	形態	講義	
	テキスト	当日配布	
	事前準備	不要	
	評価	講習時間内に筆記試験を実施する。	
講習受講希望者への事前連絡	日常、運動に関して課題や改善したいと思っていることがあれば書き留めておいて下さい。		